

彩の歳時記

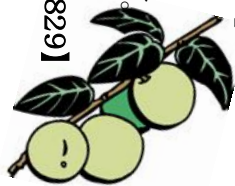
平成二十三年 六月

花ならぬ 香もなつかしみ 袖かけん 色づく梅の 雨のしづくに なかのいんみちかつ 中院通勝【1556～1610】

「花ばかりでなく香りも芳ばしい梅、その実から落ちる雨のしづくを袖にかけ、香をめでたいもの」

梅雨(梅の雨しづく)は梅の実を熟させる時。青々と膨らみ、堅(し)まった梅の実が黄に紅に熟してゆく季節です。鬱々とした雨も果実や生物には恵みの雨、やさしい雨です。

梅の実が緑の中に色わきて 紅にはふさみだれのころ 松平定信【1759～1829】



六月の異称 水無月 の「無」は「神無月」の「無」と同じく「の」にあたる助詞「な」で、水の月の意。

六月の暦

一日 衣替え 平安時代から続く伝統行事で、明治以降、官公庁・学校・企業も行っていたが、昨今は実施するところは少ない。今夏は節電の影響で衣服の工夫が見直されそうだが、和服は、慣例に従い、袷(あわせ)から単衣(ひとえ)になり、伝統を継承している。



六日 芒種【二十四節気】 芒「稲や麦など穂が出る穀物」のある植物の種を蒔く時期。田植の頃。

お稽古の日・いけばなの日 楽器の日・邦楽の日 六歳の六月六日から始めると上達すると言われていることから。その道具の楽器やお稽古ごとなど、楽器協会などの提唱により記念日に。

八日 長明忌 「行く川の流れば絶えず…」で有名な『方丈記』の作者、鴨長明【1155～1216】の忌日。歌人・琵琶の名手でもあった。神官の家に生まれながら僧になり、京都に



十一日 入梅「雑節」梅雨入りの漢語表現。芒種の後の最初の壬(じん)・みずのえの日。
十二日 宮城県民防災の日 1978年(昭和53年)、死傷者13553人を出す宮城県沖地震を機に制定されたが、東日本大地震では死者行方不明者、二万四千人余りに及び、その90%以上が津波によることから、歴史上、未曾有な災害になった。

十五日 千葉県民の日 1983年(昭和59年)に人口が500万人を越したことを記念して制定、現在約622万人。1873年に印旛郡と木更津郡が合併、県庁が千葉町に。「千葉」は「数多くの葉」の意味で「葛の葉」の枕詞。

栃木県民の日 宇都宮県と栃木県が合併した日。県庁は宇都宮市。日光国立公園を持つ。人口約200万人。昔は食糧として喜ばれたという「トチの木」が多いことに由来。

十九日 父の日【第三日曜日】



二十一日 夏至【二十四節気】夏に至る。一年で最も昼間が長いとされるが、梅雨直中で日照時間は短い。

三十日 夏越の祓 六月と十二月の晦日に行われる平安時代から続く上半期の厄を払う行事。多く、地元の神社で行われる

「茅の輪くぐり」で残り半年の息災を願いたいもの。



六月の歌

雨降りお月さん 大正十四年 曲 中山晋平

太陽や月のまわりにみえる輪のような光を暈(かさ)というが、月に暈がかかることを「お月さんが傘をさす」と言い、お月さんが暈をさす翌日は雨になると言われる。暈(傘)をさした月を現実には踏まえ、幻想的に歌っている。詞の野口雨情【1882～1945】の、日本の自然・土俗を通して、子どもに伝えたいは何か、ほの見える傑作である。北茨城市雨情記念館も津波被災にあったが五月一日に再開した。



雨降りお月さん 雲の蔭(かげ)
お嫁にゆくときや 誰とゆく
一人で傘(かさ)からかさ させてゆく
傘(かさ)からかさないときや誰とゆく
シヤラシヤラシヤンシヤン鈴つけた
お馬にゆられて ぬれてゆく
いそがにやお馬よ 夜が明けよう
手綱(てづな)をつきの下からチョイと見たりや
お袖(そで)でお顔を かくしてる
お袖はぬれても 乾(ほ)しやかかわく
雨降りお月さん 雲の蔭(かげ)